

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	淀川区
学 校 名	西中島小学校
学校長名	小坂元彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・　　小学校では、第6学年 11名

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科では、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」については、全国平均を大きく上回っているものの、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」については、全国平均を10ポイント以上、下回っている。算数科では、「C変化と関係」においては全国平均を大きく上回っており、「B図形」「C測定」については全国平均並みとなっている。一方で「A数と計算」「Dデータの活用」については全国平均を下回っている。考えを表現することや変化を捉えることについては概ねできているものの、基礎基本の定着が十分ではないため全体として、全国平均を下回る結果となっている。無答率は0%であり、問題に取り組む意欲はあると言える。

児童質問紙からは、いじめについては道徳科での取り組みや普段の学級経営の中で、よくないことがあるという認識はできていることが分かる。学力については家庭学習の時間が少なく、授業中の理解度も低い傾向が表れている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」については、授業でペアトークを積極的に取り入れたり、活用する力に重点を置いた実践に取り組んだりした成果が表れていると言える。漢字検定の取り組みで、漢字については一定の成果は見られるものの言葉の意味を捉えたり、語彙力を増やしていったりすることが課題となっている。読書量の少なさや家庭学習の時間、基礎基本の定着に向けた授業内容と時間設定の工夫は課題である。

〔算数〕 デジタル教科書などのICT機器の活用や具体物の活用により、図形や変化の関係を捉える力については、一定の成果が見られる。一方で数と計算の基礎基本の定着ができていない現状がある。授業中は理解したように見えるが、時間が経つと正答率が低くなってしまう。データの活用についても、国語科とも連携し、自分の考えをわかるように説明する力についても必要がある。

質問紙調査より

国語科の授業内容の理解や、友だちとの話合い活動については、授業研究で取り組んでいる交流を中心とした実践の成果が出てきていると捉えることができる。一方で、国語科において「目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げる」ことができていると自覚している児童が少ないことも、読むことへの苦手意識の表れとも言える。算数科においては、授業がわからないと答えている児童の割合も多いので、わかりやすい授業へと改善していくとともに、基礎基本を定着する時間を確保する必要がある。読書量や家庭学習の時間の少なさは顕著に表れており、ゲームやメディア機器の使用に家庭での時間の大半を使っている現状があるため、読書や家庭学習を推進していく方法を考える必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

読書や自主学習の時間が少ないので、区役所の放課後補習充実事業や学びサポーター、朝の時間を活用した朝読書や朝学習の取り組みも進めていくことで、読書や基礎基本の定着の時間を確保していく。生活習慣を整えたり、家庭学習の時間を確保していくためには、家庭との連携をすすめていく必要がある。引き続き家庭学習がんばりカードにより、家庭学習を奨励していく。また、睡眠の大切さやメディア機器を使用する時間を読書・自主学習に回せるように、児童だけでなく保護者に啓発をしていく。さらに読書活動や運動については、Nチャレンジとして強化週間を設定し、学校での取り組みを進めていく。また、算数の理解度を高めるために、解き方や考え方方が分かるようにノートを書き、理由をつけて説明するような授業内容に改善していく。